200400665A

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

個別施策層に対する固有の対策に関する研究

平成16年度　総括研究報告書

主任研究者　樽井　正義

平成17（2005）年3月

研 究 組 織

主任研究者

樽井　正義　　慶應義塾大学文学部

分担研究者

沢田　貴志　　港町診療所 医師、特定非営利活動法人 国際保健協力市民の会
太田　昌二　　特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会
山野　尚美　　京都府立大学社会福祉学部
長谷川　博史　　JaNP+（ジャンププラス／Japanese Network of People Living with HIV/AIDS）

研究協力者

吉田　智子　　Project QQ
渡部　享宏　　Campus AIDS Interface（CAI）
水島　希　　モラルドーナツ、SWASH（Sex Work and Sexual Health）、財団法人 エイズ予防財団 リサーチレジデント

芦田　崇　　特定非営利活動法人 国際保健協力市民の会
稲場　雅紀　　特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会
枝木　美香　　特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク
大西　真由美　　特定非営利活動法人 HANDS
鶴田　浩史　　HIV/AIDS 在日外国人支援ネットワーク
李　祥任　　特定非営利活動法人 国際保健協力市民の会
Genaro Castro-Vazquez　　慶應義塾大学文学部

風間　孝　　非営利特別活動法人 動くゲイとレズビアンの会
柏崎　正雄　　非営利特別活動法人 動くゲイとレズビアンの会
鳩貝　啓美　　非営利特別活動法人 動くゲイとレズビアンの会

要　友紀子　　SWASH

榎本　てる子　　大阪市派遣エイズカウンセラー
西田　淳志　　三重大学大学院医学系研究科
Sandra Kimball, B.A., M.A.C.A　Counselling Services Kyoto

生島　嗣　　非営利特別活動法人 ぷれいす東京
尾崎　友　　JaNP+
神谷　俊樹　　JaNP+
館林　稔　　HEARTY NETWORK
外山　芳春　　JaNP+
藤原　良次　　りょうちゃんず
矢島　嵩　　NEST

事務局

〒108-8345　東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学文学部樽井研究室
Tel.&Fax.: 03-5427-1131　　E-mail: tarui@flet.keio.ac.jp

目　次

I　総括研究報告

個別施策層に対する固有の対策に関する研究 …… 1
樽井正義

II　分担研究報告

1. 青少年に関する対策の研究
青少年を企画・実施の主体とする啓発活動の促進に関する研究 …… 7
樽井正義　吉田智子　渡部享宏　水島希
（資料 1-1）Get Started! — HIV/エイズ活動 はじめの一歩 …… 11

2. 在日外国人に関する対策の研究
2.1. グローバル時代の在日外国人エイズ対策の展望
—タイ人 HIV 陽性者の支援モデルの検討を中心に— …… 23
沢田貴志　芦田崇　稲場雅紀　枝木美香　大西真由美
鶴田浩史　李祥任
2.2. タイにおける ARV 治療
—タイ東北部シェア活動地の現場から 2004 年— …… 31
李祥任
2.3. HIV 陽性在日ラテンアメリカ人のセクシュアリティー
— disembodiment と embodiment — …… 35
'Live a life or live a death': Embodiment and Sexual Experiences of some Latin American PLWHA men in Japan. …… 37
Genaro Castro-Vazquez　樽井正義
2.4. ペルーにおける HIV/AIDS 対策（予防、治療、感染者支援）に関する調査報告 …… 57
大西真由美
（資料 2-1）HIV 陽性タイ人支援のために
医療生活相談担当者マニュアル …… 63
（資料 2-2）帰国する在日アフリカ人 PLWHA とケア提供者のための
ガイドブック（2004 年度版 東アフリカ編） …… 71

3. 男性同性愛者に関する対策の研究
男性同性愛者等の保健医療機関へのアクセシビリティの向上を通じた
HIV/STD 予防介入に関する研究 …… 97
太田昌二　風間孝　柏崎正雄　鳩貝啓美

4. 性風俗産業従事者に関する対策の研究 …… 109
樽井正義　水嶋希　要友紀子
（資料 4-1）セックスワーカーへの保健医療サービス
— 実践ガイドライン …… 113

5. 薬物使用者に関する対策の研究 …… 117
山野尚美　板本てる子　西田淳志
Sandra Kimball, B.A., M.A.C.A
（資料 5-1）こころとからだのヘルスプロモーション …… 125
（資料 5-2）ハームミニマイゼーション …… 143
（資料 5-3）質問紙 …… 145
（資料 5-4）調査結果 …… 147

6. 陽性者に関する対策の研究
PWH/A のエイズ関連施策への関与の可能性と実現に関する研究 …… 153
長谷川博史　生島嗣　尾崎友　神谷俊樹
館林稔　外山芳春　藤原良次　矢島嵩
（資料 6-1）HIV 陽性者スピーカー研修モジュール …… 161
（資料 6-2）スピーカー研修会参加者アンケート調査結果 …… 191

I　総括研究報告

個別施策層に対する固有の対策に関する研究

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

総括研究報告

個別施策層に対する固有の対策に関する研究

主任研究者　　樽井 正義　　慶應義塾大学文学部 教授

研究要旨

本研究は、6 つの個別施策層対策に関する個別研究からなり、相互の比較検討を通して個別施策層の予防と治療の促進に必要な配慮と有効な実践方法とを策定することを目的とする。昨年度までに、各当事者の現状およびそこに必要とされるものを調査し、また海外における施策モデルを収集し検討した。これを踏まえて今年度は、個別施策層の当事者自身により予防と治療を促進する方策として、(a) 青少年が同世代に対して予防啓発活動を自主的に行う方法と手段、(f) 陽性者がスピーカーとして予防啓発を含む社会参加を行うための研修プログラム、そして (e) 陽性者が薬物使用を回避し、薬物使用者が感染を予防して、健康を促進するための基礎知識を整理した。また医療者、行政者、支援 NGO に対しては、(c) 男性同性愛者および (d) 性風俗産業従事者の必要と特性に配慮して保健医療サービスを提供するための基礎知識と方法、そして (b) 外国人に提供すべき、日本と母国における予防・治療・支援の社会資源に関する情報を整理した。これらの情報は、当事者と支援者が利用できるよう、冊子にまとめられた。いずれもわが国においては初めての試みであり、今後の対策の立案と実施の基礎資料となりうる。

分担研究者

沢田　貴志	港町診療所 医師、特定非営利活動法人 国際保健協力市民の会
太田　昌二	特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会 執行理事
山野　尚美	京都府立大学社会福祉学部 助教授
長谷川　博史	JaNP+（ジャンププラス／Japanese Network of People Living with HIV/AIDS）代表

A. 研究目的

個別施策層 6 グループについて次の研究を行い、それぞれの課題に資する冊子を、当事者および行政機関、医療機関、支援 NGO に向けて作成する。

a) 青少年を企画・実施の主体とする啓発活

動の促進に関する研究
b) 在日外国人の HIV 対策の社会資源の活用による推進に関する研究
c) 男性同性愛者等の保健医療機関へのアクセシビリティの向上を通じた HIV/STD 予防介入に関する研究
d) 性風俗産業従事者の予防啓発のための保健医療機関との連携に関する研究
e) 薬物使用者のヘルスプロモーションのための情報提供に関する研究
f) HIV 陽性者の社会参加をはかるスピーカー養成プログラムに関する研究

B. 研究方法　C. 研究結果　D. 考察

本研究は、6 つの個別施策層対策に関する個別研究からなり、相互の比較検討を通して個別施策層の予防と治療の促進に必要な課題と有効な実践方法とを立案する。

（倫理面への配慮）
本研究において倫理上、人権上の配慮を要するのは、個別施策層に属する個人の情報が扱われる場合である。センシティヴ情報の取得に際しては、OECD8 原則にのっとり、個人情報利用の目的と守秘の方法とを説明し、理解と同意を得ることを徹底した。また個人情報の研究での利用は、同意が得られた範囲に限定した（f. 陽性者の項参照）。

a) 青少年

研究方法　青少年自身による青少年に向けた予防啓発活動を行っているグループに対する質問紙と面接による調査結果を分析し、ピアの概念や大人の関わり方の研究を踏まえて、HIV/AIDS 問題に主体的に取り組もうとする青少年の必要に即した実践例と利用可能な資源を収集し整理した。

研究結果　青少年自身が同世代を対象に自主的に企画・実施している啓発活動をモデルに、勉強会の開催、学校・地域文化祭への参加、情報を発信するパンフレットの作成、NGO への参加等の方法、利用可能な情報（保健医療機関、NGO、ウェブ）と資源（講師、展示パネル、写真、冊子等）の所在を整理し、冊子にまとめるとともにホームページに掲載した（Get started! — HIV/エイズ活動 はじめの一歩）。

考察　青少年は自主的に多様な啓発活動を展開しているが、相互の交流とノウハウの継承が困難であることが示された。制作した啓発活動支援冊子は、HIV/AIDS に関心をもちながら、それを仲間と共有する方法も資源ももたない青少年に、関心を活動に移すヒントを提供すると期待される。

b) 外国人

研究方法　在日外国人陽性者（南米系・東南アジア系）とその支援 NGO、本国の政府機関（とくに在日タイ大使館）・支援 NGO 等への面接調査を通じて、日本における医療へのアクセスの阻害要因と母国での治療と医療制度、NGO 等社会資源の現状を把握し、タイにおける医療の現状調査結果と併せて、外国人陽性者の予防と治療の向上に資する情報として整理した。また南米については、滞在者が多いペルーの、アフリカについては、東アフリカのケニア、ウガンダ、タンザニアの医療情報を収集した。

研究結果　超過滞在者と医療機関の双方における診療にかかわる困難を改めて明らかにするとともに、ブラジルだけでなく、東南アジア（タイ）や東アフリカ（ケニア、ウガンダ）において政府が導入しつつある ARV 治療、これを提供する医療機関や支援 NGO の実情について具体的な情報を収集し、拠点病院の医療相談員対象のセミナーを通じて検討を加え、在日タイ人向け医療情報パンフレットを作成した。また日本の

医療機関・支援 NGO 向けに、タイ人およびアフリカ人に医療を提供する際に有用な情報を冊子にまとめた（HIV 陽性タイ人支援のために 医療生活相談担当者マニュアル、帰国する在日アフリカ人 PLWHA とケア提供者のためのガイドブック 2004 年度版 東アフリカ編）。

考察 発症した途上国出身者に対して治療提供が控えられる理由として、経済的障碍に加えて、母国における ARV の不在が挙げられてきたが、途上国に治療が導入され始めた現在、帰国後の治療可能性に関する正確な情報を踏まえた適切な治療の提供、そのための日本と母国双方の官民の連携が、公衆衛生的にも倫理的にも要請される。

c) 男性同性愛者

研究方法 男性同性愛者等の保健医療機関へのアクセスの現状に関する電話相談データとフォーカス・グループ・インタヴューによる定量・定性分析、医療従事者が同性愛者を診療する際のニーズに関する質問紙と面接による調査、および米国で使用されているガイドライン（GLMA）の分析をふまえ、医療従事者が同性愛者の診療に際して必要とする基礎情報と対応のスキルを検討した。

研究結果 保健医療従事者に提供すべき情報として、1) 性的指向（同性愛・異性愛・両性愛は同等の性のあり方として認知されること）、2) 心理的社会的問題（異性愛を自明として同性愛の性的指向の自己否定を強いる社会状況が、同性愛者に孤立化等の問題を生んでいること）、3) 性感染症（異性愛に比して乏しい同性愛に関わる性感染症と予防の情報が、感染リスクを高める一因になっていること）に関する説明と、4) 同性愛者の不安に配慮した対応（プライバシーの尊重、non-judgmental な姿勢）の具体例を整理し、冊子にまとめた（性的指向と HIV/STD ― 同性愛者の不安とニーズに対応した保健医療サービスを提供するために）。

考察 保健医療従事者の「とまどい」をなくす性的指向と性感染症に関する情報は、同性愛者にも必要な情報であり、それが共有されることによって、同性愛者が医療機関に対してもつ「不安」が取り除かれ、受診行動と予防行動が促進されることが期待される。

d) 性風俗産業従事者

研究方法 1) 性風俗産業におけるコンドーム使用の実態を把握するために、各地域の性風俗産業求人情報誌に掲載されている就業条件の情報を収集・分析し、その地域で働くセックスワーカーに対する面接調査の結果との比較を行った。2) 接近が困難な個別施策層への保健医療サービス提供の可能性を検討するために、欧州のセックスワーカーNGO（EUROPAP）が作成したガイドラインを翻訳し、日本の実情と対比した。

研究結果 1) 求人情報誌記載のコンドーム使用やサービス内容に関する記述には規制があり、実態をそのままには表してはいないことが、セックスワーカーへの面接調査から明らかになった。2) 欧州の保健医療サービス提供のガイドラインに示されているセックスワークの多様性、医療者の基本姿勢、提供しえる各種の保健医療サービス等の情報は、セックスワークと保健医療の問題を包括しているので、日本の状況との差異を注記して冊子にまとめることとした（セックスワーカーへの保健医療サービス ― 実践ガイドライン）。

考察 求人情報誌は就労条件を知るには不十分だが、数万部発行されているこの媒体を通じて接近困難なセックスワーカーに保健医療情報を発信し、予防介入を行う可

能性が示唆された。

e) 薬物使用者

研究方法 国内予備調査により、現時点では薬物使用者には HIV 啓発の導入に抵抗感があると判断されたので、これに配慮し、陽性者にとって有用な HIV と精神作用薬に関する情報という形で、オーストラリアの医療機関等における調査結果を日本の現状に即して整理し、その妥当性について、陽性者、HIV／薬物使用 NGO スタッフ、カウンセラー、看護師、医師を対象に質問紙による調査を行った。

研究結果 薬物使用防止の啓発と断薬への動機付けを目的に、陽性者には薬物関連問題についての、薬物使用者には HIV はじめ感染症についての基礎的な情報を整理し、冊子にまとめた（こころとからだのヘルスプロモーション）。とくに陽性者のメンタルヘルスとの関連で、薬物使用による治療への悪影響として、薬物と治療薬との化学反応による健康被害の可能性、免疫力の低下、服薬アドヒアランスやセーフセックスがおろそかになる危険性、薬物依存への傾向等について解説し、また薬物使用における感染危害の低減方法にも言及した。

考察 薬物使用者のなかには、薬物使用と HIV 感染を結びつけることにより二重のスティグマを負わされることへの恐怖感があり、他方でエイズ対策においては、薬物使用がほとんど扱われていない。しかし、薬物使用者の感染に加えて、陽性者が心理的問題から薬物を使用する例もあり、この問題への取り組みが求められる。

f) 陽性者

研究方法 前年度までに翻訳・実施した陽性者スピーカー養成のための研修プログラム（APN+）の内容と実施方法に関して研修企画者・参加者に対する質問紙調査と、スピーカー経験者および依頼主の双方の期待と評価について面接調査を実施し、これらを踏まえて日本の現状に適するように研修プログラムを改訂し、最終版とした。

研究結果 陽性者として話をする動機の自覚化、依頼主・聴衆の特性と期待の明確化、緊張と動揺のコントロール、スピーチの論点と構成、スピーチの実施等、24 コマからなる 2 日間 710 分の研修プログラムを開発し、冊子にまとめた（HIV 陽性者スピーカー研修モジュール）。また研修を企画・実施する過程で、研修参加者の多様性の尊重、守秘等 7 項の人権に配慮し円滑な運営をはかるためのグランドルールを定めた。

考察 研修とマニュアル作成を通じて、陽性者の話を聞く依頼主・聴衆の側の期待、陽性者として話す、社会参加（GIPA）を志向するスピーカーの側の動機、その双方に曖昧さとずれがありがちなことが反省された。また感染予防、人権擁護、セクシュアリティー、性的指向、医療、教育等、陽性者が伝えるメッセージの豊かさが自覚された。さらに、社会参加への意欲の向上が見られ、スピーカーの専門的能力向上等の支援や派遣システムを整える必要が指摘された。

E. 結論

個別施策層の当事者自身により予防と治療を促進する方策として、青少年が同世代に対して予防啓発活動を自主的に行う方法と手段（a）、陽性者に対してはスピーカーとして予防啓発を含む社会参加を行うための研修プログラム（f）、また陽性者が薬物使用を回避し、薬物使用者が感染を予防して、健康を促進するための基礎知識（e）を整理し提供した。また医療者に対しては、男性同性愛者および性風俗産業従事者の必要と特性に配慮して保健医療サービスを提

供するための基礎知識と方法（c、d）、そして外国人に提供すべき、日本と母国における予防・治療・支援の社会資源に関する情報（b）を整理した。これらはいずれも、わが国においては初めての試みであり、今後の対策の立案と実施の基礎資料となりうる。

エイズ対策、わけても個別施策層に対する施策に不可欠な要件として、ひとつには当事者の必要と特性に配慮すること、いまひとつは当事者の、とくに陽性者の主体的参加を促進することが挙げられる。この研究においては、そのモデルが提示された。主体的な参加はもとより、行政機関、医療機関、支援 NGO にとってすら接近が困難な外国人、性風俗産業従事者、薬物使用者についても、情報提供の方途が示唆された。

今後の研究課題として、陽性者については、スピーカー研修による社会参加意欲の向上の実績を踏まえて、日常生活と治療生活の自律的向上をはかるピアサポート・プログラムの開発、また外国人については、予防治療情報の提供をさらに一歩進めて、内外の公的機関や支援 NGO との連携による、外国人コミュニティー（タイおよび東アフリカ出身者）における予防・治療促進のための介入プログラムの開発が提起された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

主任研究者

原著論文

欧文

1) Tarui,M., Sawada,T., Castro-Vasquez,G. Issues Concerning Human Rights and HIV/AIDS of Non-Japanes Workers in Japan. Background Papers for Expert Meeting on HIV/AIDS and Human Rights in Asia-Pacific. OHCHR. 199-212, 2004

和文

1) 岩本愛吉、沢田貴志、樽井正義、根岸昌功、花井十伍、宮田一雄. SARS — AIDS の教訓は生かされているか. エイズ — 終わりなき夏. 連合出版, 119-174, 2005
2) 樽井正義. 世界のエイズ危機に日本が果たすべき役割. 世界週報. 85.39:24-27, 2004
3) 樽井正義. グローバル・イッシューへのNGO/NPOの取組み. グローバル時代の感染症. 慶應義塾大学出版会, 221-236, 2004

口頭発表

海外

1) Castro-Vazquez, G., Tarui, M. Background of Informed consent or counselling: an ethnographic approach to the needs of latin american people living with HIV/AIDS in Japan. The 15th International AIDS Conference. July 11-16, 2004, Bangkok. Thailand

国内

1) Castro-Vazquez, G., 樽井正義. HIV陽性在日ラテンアメリカ人のセクシュアリティー：disembodiment と embodiment. 日本エイズ学会, 2004, 静岡

分担研究者

原著論文

和文

1) 沢田貴志. HIV 感染外国人女性の援助. 小児内科 37, 2005 (in press)

2) 沢田貴志. アジアに勇気をえたバンコク会議. 日本エイズ学会誌 6: 198-201, 2004

3) 李祥任、沢田貴志、他. 東北タイの抗HIV薬プロジェクトにおける草の根レベルの取り組み第一報～感染者グループ・病院・NGOの協力による服薬支援～. 国際保健医療 19: 153, 2004

4) 長谷川博史. エイズに立ち向かうために国際標準の“ひとつの戦略”を. 厚生労働, 2005 (in press)

5) 水島希. セックスワーカーの運動 ―それでも現場は、まわっている. 労働のジェンダー化. 平凡社, 129-153, 2005 (in press)

6) 水島希. 日本のデータから見るエイズと女性. 女たちの21世紀(アジア女性資料センター) 39, 23-26, 2004

口頭発表

海外

1) Hatogai,H., Niimi.H., Kazama,T., Kashiwazaki,K. Research on barriers to accessibility to medical/health services among MSM/gay men in Japan. The 15th International AIDS Conference. July 11-16, 2004, Bangkok. Thailand

国内

1) 鳩貝啓美、太田昌二、他. 同性愛者等を対象とした個別施策層と行政 ―NGO 連携を推進するうえでの課題／阻害要因に関する研究. 日本エイズ学会, 2004, 静岡

2) 柏崎正雄、太田昌二、他. ゲイバーを介入空間とするワークショップ型 HIV予防啓発手法のケーススタディ～各地で実施可能にするためのモデル～. 日本エイズ学会, 2004, 静岡

3) 沢田貴志、他. エイズと向き合う地域社会を作る東北タイでの取り組みとNGOの役割. 日本エイズ学会, 2004, 静岡

4) 沢田貴志、他. 神奈川県における医療通訳制度化の取り組み. 日本病院学会, 2004, 横浜

5) 長谷川博史、他. HIV陽性者スピーカー育成プログラムの開発～海外プログラムの日本への導入～. 日本エイズ学会, 2004, 静岡

6) 長谷川博史、他. MSMのセクシュアリティ理解のためのプログラム開発 ゲイコミュニティと保健所の協働による検査環境改善プログラムの一環として. 日本エイズ学会, 2004, 静岡

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

II　分担研究報告

1. 青少年に関する対策の研究
   青少年を企画・実施の主体とする啓発活動の促進に関する研究
   （資料 1-1）Get Started! ― HIV/エイズ活動 はじめの一歩

2. 在日外国人に関する対策の研究
   2.1. グローバル時代の在日外国人エイズ対策の展望
   ―タイ人 HIV 陽性者の支援モデルの検討を中心に―
   2.2. タイにおける ARV 治療
   ―タイ東北部シェア活動地の現場から 2004 年―
   2.3. HIV 陽性在日ラテンアメリカ人のセクシュアリティー
   ― disembodiment と embodiment ―
   'Live a life or live a death': Embodiment and Sexual Experiences of some Latin American PLWHA men in Japan.
   2.4. ペルーにおける HIV/AIDS 対策（予防、治療、感染者支援）に関する調査報告
   （資料 2-1）HIV 陽性タイ人支援のために 医療生活相談担当者マニュアル
   （資料 2-2）帰国する在日アフリカ人 PLWHA とケア提供者のための
   ガイドブック（2004 年度版 東アフリカ編）

3. 男性同性愛者に関する対策の研究
   男性同性愛者等の保健医療機関へのアクセシビリティの向上を通じた HIV/STD 予防介入に関する研究

4. 性風俗産業従事者に関する対策の研究
   （資料 4-1）セックスワーカーへの保健医療サービス ― 実践ガイドライン

5. 薬物使用者に関する対策の研究
   （資料 5-1）こころとからだのヘルスプロモーション
   （資料 5-2）ハームミニマイゼーション
   （資料 5-3）質問紙
   （資料 5-4）調査結果

6. 陽性者に関する対策の研究
   PWH/A のエイズ関連施策への関与の可能性と実現に関する研究
   （資料 6-1）HIV 陽性者スピーカー研修モジュール
   （資料 6-2）スピーカー研修会参加者アンケート調査結果

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告

個別施策層に対する固有の対策に関する研究

青少年に関する対策の研究

青少年を企画・実施の主体とする
啓発活動の促進に関する研究

主任研究者	樽井　正義	慶應義塾大学文学部
研究協力者	吉田　智子	Project QQ
	渡部　享宏	Campus AIDS Interface（CAI）
	水島　希	モラルドーナツ、財団法人 エイズ予防財団 リサーチレジデント

研究要旨

昨年度までに、青少年自身が青少年に向けて予防啓発活動を行っているグループに対する質問紙と面接による調査結果の分析と、ピアの概念や大人の関わり方の研究とを行った。この研究成果を踏まえて、HIV/AIDS 問題に主体的に取り組もうとする青少年の必要に即した実践例を整理した。これらを、「知る、情報を集める」「自分たちから発信する」「始める、続ける」という 3 つの活動のレベルに分類し、利用可能な資源や HIV/AIDS の基礎用語を加え、青少年向けのパンフレットを作成した。これによって、HIV/AIDS に関心をもちながら、それを仲間と共有する方法も資源ももたない青少年に、関心を活動に移すヒントが提供されることが期待される。

A. 目的

昨年度までの、青少年自身が青少年に向けて予防啓発活動を行っているグループに対する質問紙と面接による調査結果を分析し、ピアの概念や大人の関わり方の研究を踏まえて、今年度は、青少年に対して自主的な活動を促す情報を整理し提供する。HIV/AIDS 問題に主体的に取り組もうとする青少年の必要に即した実践例と利用可能な資源を収集し、活動を自ら始める手がかりを冊子にまとめる。

B. 研究方法

昨年度、質問紙と面接によって収集した、当事者である青少年が主導するプログラムの事例を分析した結果、青少年のグループは多様な活動を自主的に展開していること、しかしそれを他のグループと共有する、あるいは次の世代に継承させるのは困難であること、が明らかにされた。

そこで本年度は、次世代のHIV/AIDS活動が継承することのできるモデル事例を抽出し、そうした活動を開始する際の前提条件となる情報やそれを得る方法を補足することを試みた。

1. 対象とする活動の限定

青少年自身が取り組むプログラムの種類や効果については、「ピア・アプローチに関する国内外の文献研究」（東、2004）などがある。しかし、そうしたプログラムにおいてピア・アプローチと呼ばれているものは、UNAIDSの報告書からの引用にあるように、多くが「・・・同集団のメンバーを使うこと」である。つまり、青少年を対象としたものであって、青少年が主体となるものではない。

本研究で対象とした青少年の活動は、当事者自身が自発的に取り組みを始め、継続している事例に限定した。そのなかには、学生同士のピア・エデュケーション・プログラムから、活動の主体は学生でも、対象は同世代の範囲を超えて、保健師に対してセクシュアル・マイノリティに関する研修をおこなっているといったケースもあった。

2. モデル事例を抽出し、前提となる情報を補足する基準

HIV/AIDS問題への全国の青少年による主体的な取り組みにおいては、文化感受性に優れた視点をもつ工夫されたプログラムが多彩に展開されている。こうしたなかから、HIV/AIDSに関してなにか情報を仲間に伝えたい、問題を仲間と一緒に考えたいと思っている青少年にとって、自分ひとりでも始められるような活動のモデルとなりうるものを抽出した。

他方で、モデルとなりうる活動を行った青少年には、活動の前提となるHIV/AIDS等に関する適切な情報と、活動を推進する最低限度のノウハウがあることが認められた。そうした前提条件を自分で満たすのを助けるために、基本的な情報の所在を整理し、活動を進める方法を提示することを試みた。

3. 青少年の活動に必要だが、現在不足している知識

既存の活動事例には見られないが、昨年度の調査により浮かび上がってきた、青少年がHIV/AIDSに関する活動をする際にニーズが高いことがわかった情報をあげ、活動を進める上で参照できるものとして付加した。

C. 研究結果

昨年度までの調査結果の分析にもとづき、日本全国の青少年が主体的に企画、決定プロセスに関わっている啓発活動のなかから、今後、青少年自身が主体的な取り組みを進める上でヒントとなるモデル、情報、資源をまとめたハンドブック『Get Started! ー HIV/エイズ活動 はじめの一歩』(資料1-1)を制作した。

このハンドブックの主内容となるのは、昨年度までの調査によるモデル事例から抽出された、青少年が取り組むことのできる活動事例紹介である。こうした活動事例を、本ハンドブックでは、「知る、情報を集める」

「自分たちから発信する」「始める、続ける」という3つのステップに活動のレベルを分類して紹介した。

本ハンドブックでは、青少年のHIV/AIDS活動を促進するという目的から、HIV/AIDSそのものについての解説等は掲載していないが、「知る、情報を集める」では、基本的な情報の検索方法や身近なリソースを示し、自ら学ぶことを促した。「自分たちから発信する」では、自分たちの学習にとどまらず、友人や知人とともに実施できる活動を取り上げた。具体的には、特に身近な資源を利用しておこなうことができる学校や行政の施設を利用した勉強会の開催や、学校・地域文化祭への参加、情報発信のためのツールの作成などを取り上げた。「始める、続ける」では、継続的な活動をしていくための方法や、継続性が必要な活動、そして大きな資源が必要となる活動を挙げた。具体的には、NGOの活動への参加、メールニュースの発行、クラブイベントの企画を紹介した。

さらに、こうした活動事例に共通して必要となる技術および青少年の活動に必要だが不足している技術を「ヒント集」としてまとめた。具体的には、事前準備として「会場選び」と「宣伝する」、今後の活動につなげるために不可欠な「記録する」、そして青少年だけでは不足しているリソースを得るための「協賛・協力を依頼する」および「企画書作成のコツ」を取り上げた。

「HIV/エイズについて、まず知っておきたい言葉」では、青少年が活動する上で前提となっている知識や、本や文献などでは紹介されることの少ない情報をまとめて掲載した。さらに、利用可能な情報として、特に青少年が活動するうえで知っておいた方が便利だと思われるウェブサイト、または活動を考える上で有益だと思われる先行事例のウェブサイトを、その特長の説明とともに掲載した。

デザインには、青少年が受け入れやすい工夫を施し、特にヒントとなる内容を吹き出し形式でわかりやすく挿入し、先例を写真で挿入して活動のイメージを持ってもらえるように工夫した。また、全編にわたり、世界各地でHIV/AIDSに関する活動を継続している青少年の声を、青少年への応援メッセージとして掲載した。

さらに、これと同じ内容をウェブサイトに掲載し、全国の青少年が活用できるよう工夫した。

D. 考察

昨年度までの調査から、全国で青少年が自主的に多様な活動を展開していることがわかった。しかし、これらの活動は全国で散発的におこなわれており、青少年相互の交流や、スキルの交流がおこなわれる機会はほとんどなかった。2003年11月に、日本で初めてHIV/AIDSに関わる活動をする青少年が全国から集まるユース・フォーラムが開催され、その後メーリングリストによりネットワーク化がはかられた。しかし、高校から大学へ、大学から社会人へと環境や興味が変化していく時期にある青少年にとって、活動を継続していくことが困難であることから、次世代の青少年が活動やスキルを継承する機会も少なかった。しかしながら、青少年自身がHIV/AIDSという課題の重要性に気づき、自ら学び活動をしていくことは、HIV感染予防対策にとって非常に重要である。

こうした背景と、青少年が活動する上でのニーズを補う目的でまとめたのが、『Get Started! ― HIV/エイズ活動 はじめの一歩』である。これまでにも、HIV/AIDS活動をするための情報がまとめられている本やウェブサイトは存在しているが、青少年

が自ら活動する際のニーズに特化して、ピアの視点でまとめられているものはなかった。

本ハンドブックではこのニーズに応えるため、昨年度までの調査から抽出された、青少年が自主的に HIV/AIDS 活動をするために必要とする情報を整理し、それに合致する情報をわかりやすく掲載して、取り組みを促進することにつとめた。

その結果、全国の「先輩」青少年による活動事例から抽出したモデルケースを、レベルごとに分類して、実施することができるようにわかりやすく紹介した。

また、活動の前提として知っておくべき知識や参考になる情報源、青少年の活動に知っておくと有益な知識や技術を整理して掲載した。特に、知っておくべき知識を掲載した「まず知っておきたい言葉」では、HIV/AIDS について青少年が手にすることのできる本などの情報源では得にくいと思われる情報に特化してまとめている。

青少年自身による活動に継続性が見られない原因のひとつとして1回ごとの記録や振り返りがなく、単発で終わりがちという傾向がある。また、青少年自身には資源や人的ネットワークが不足しており、効果的な活動を行うためには、他セクターからの支援が重要な役割を果たしているものの、自分たちには、自らの活動をどのように大人や他セクターに紹介したらよいかわからないという現状がある。そこで、「ヒント集」に「記録する」という項目を盛り込んで、自らの活動を記録し、成果として活用することを推奨した。さらに、他セクターの協力を得るために必要な準備として、「ヒント集」の「協賛・協力を依頼する」の中に簡単な「企画書作成のコツ」を掲載した。こうした活動のための情報が、青少年にとって得にくい社会のリソースに対するアクセスを少しでも良好にし、活動機会を増やしていくヒントになればと思う。

これらにより、本人による活動の継続や次世代による継承が困難な青少年の活動が、継続して行くために一定の役割を果たすことが期待される。また、これまで活動を始めるきっかけがなかった青少年にとっては、ピアの視点で編集された本ハンドブックのような資材により、HIV/AIDS に対する関心の芽を具体的な活動につなげていくきっかけとなることが期待される。

ハンドブックでは、世界各国で HIV/AIDS 活動に自主的に取り組む青少年当事者から、活動における想いや目標についての言葉をピアの声として収録し、自ら HIV/AIDS に関して行動したいという熱意を持っている日本の青少年への応援メッセージとした。今後は、こうした青少年の自主性を尊重しながら、さらに効果的なプログラムの実施に向けて、大人側がいかなる協力体制を築くことができるかという検証が課題とされるべきであろう。

【資料1-1】

目次

1 はじめに～この本の使い方～ 3
2 「こんなことができる!」 4
3 ヒント集 14
4 HIV/エイズについて まず知っておきたい言葉 18
5 参考になるWebsite 20
6 終わりにかえて。 22

1 はじめに～この本の使い方～

HIV/エイズについて何かしてみたい、…と考えている人は多いはず。でも「具体的に何をすればいいのか分からない!」「お金が必要なん?」「友達と2人でも出来ることって…」などなど、疑問はつきません。この本は、そんな時の参考になる情報を集めたものです。わたしたちにできそうなことや、やってみる上でのヒントが書かれています。

「案ずるより生むが易し」! 今まで全国で活動してきた先輩たちからのアドバイスを参考に、できることからチャレンジしてみてください。

2「こんなことができる!」

Step1. 知る、情報を集める ▶ Step2. 自分たちから発信する ▶ Step3. 始める、続ける

どんなことならできそう??
学校の中でできそうなことは? いくらくらいなら使える?
いろいろ考えながら試してみよう。

Step1. 知る、情報を集める

「若いことにプライドを持って、自分自身でイニシアチブを持ってやろう。大人にいわれたことをやるのではなく、自分たちでできることをやろうよ。」ーTiranu、アメリカ

1.「知る」〜第一ステップはまず自分が知ることからだ!

まず興味のあることを、図書館やインターネットで探してみよう。

図書館で、エイズに関係ある本を探してみよう!

HIVやエイズの仕組みについての本以外にも、HIV陽性者の想いや声を収録した本、小説など色々な本があるよ。

注意!

図書館にある本は古いものもあるので、発行年をチェックしよう。1990年より前に発行された本だと、情報が少し古い可能性がある。読みたい本がない場合は、図書館にリクエストして、入れてもらうこともできるよ。

★本の検索 Amazon　http://www.amazon.co.jp

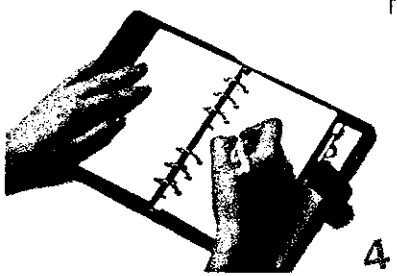
インターネットの検索エンジンを使いこなそう。

例) Yahoo! Japan　http://www.yahoo.co.jp
　　Google　http://www.google.co.jp

「エイズ」「HIV」「エイズ検査」など、興味のあるキーワードを入れていこう。

映画は探してみた?

エイズをテーマにした映画がいくつかあるよ。 例)「マイ・フレンド・フォーエバー」(アメリカ、1995年)
「フィラデルフィア」(アメリカ、1993年)
「ゼロ・ペイシェンス」(カナダ、1993年)



2.「もっと情報を集める」〜知りたいことを掘り下げてみる。

詳しい先生やNGOなどに聞く。

- 学校の先生、保健室の先生などにも聞いてみよう!
- エイズ予防財団の「NGO一覧」を使って、家の近くにNGOがないか探してみよう。
  http://api-net.jfap.or.jp/soudan/soudan_Frame.htm

問い合わせをするときは、目的をはっきりさせること。
もしお会いすることになったら、約束時間をきちんと守ろう!

NGOや市町村のイベントに参加する。

- 家の近くのNGOが勉強会やイベントをやっていないか、問い合わせてみよう。
  特に、世界エイズデー12月1日前後は注目!
  全国各地でさまざまなイベントが一斉に開催される。
- AIDS文化フォーラムin 横浜(神奈川県横浜市)
  http://www.yokohamaymca.org/AIDS/index.htm
  1994年以来10年以上にわたって続けられている市と市民によるエイズのフォーラム。
  いろいろなNGOやグループが自分たちなりの企画を発表することのできる年に一度のイベント。